

2019年8月7日

2019年FIA-F4選手権シリーズ第4大会 参戦報告書

HFDP事務局 阿部 正和

2019年FIA-F4選手権シリーズ
第4大会 (第7戦/第8戦)

8月3日(土)~4日(日)、富士スピードウェイ(静岡県)でFIA-F4選手権シリーズ第4大会(第7戦、第8戦)が開催されました。HFDP(Honda フォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5 三宅淳詞(HFDP/SRS/コチラレーシング。1999年3月17日生まれ。20歳)、#6 太田格之進(SRS/コチラレーシング。1999年6月18日生まれ。20歳)、#7 佐藤蓮(SRS/コチラレーシング。2001年8月5日生まれ。17歳)、#8 小山美姫(#USLETE Honda Racing。1997年9月5日生まれ。21歳)が出場しました。小山は、Wシリーズに並行参戦しているため、今回が今季のFIA-F4選手権シリーズ2回目の出走となります。

#7 佐藤が2連勝。

■公式予選(30分間) : 天候/晴れ 路面/ドライ



梅雨が明けた富士スピードウェイは、夏の太陽が照りつける好天となりました。木曜日、金曜日の練習走行を経て迎えた土曜日、午前8時5分から30分間の公式予選セッションが始まりました。事前にミーティングで、コース終盤の路面舗装が連日の猛暑で剥がれ、それを修復すると共にオイル処理が行われたという情報をもとに、走行が始まって路面が整うまでコースインを待った方がいいだろうという判断が監督から下され、コースオープン後も4台はピット前で待機、他車より1周から2周後れたタイミングで

コースインしてウォームアップを始めました。

コースオープン後のタイムアタック合戦を横目に、セッション半ばでようやくタイムアタックにかかったHFDP勢はまず太田が上位に進出、のこり10分を切ったところで佐藤が立て続けにベストタイムを更新してトップに立ちました。その結果、第7戦、第8戦とも、ここまでシリーズ3勝を挙げている佐藤がポールポジションを獲得しました。一方、佐藤以下1秒の間に17台が並ぶ激戦の中、三宅は第7戦8番手、第8戦7番手、太田は第7戦9番手、第8戦8番手、小山は第7戦10番手、第8戦9番手と、タイムが伸び悩み不本意なポジションにつくこととなりました。



第7戦公式予選結果

予選1位 #7 佐藤 蓮 1分46秒038

予選8位 #5 三宅 淳詞 1分46秒531

予選9位 #6 太田 格之進 1分46秒533

予選10位 #8 小山 美姫 1分46秒665

第8戦公式予選結果（タイムアタックのセカンドタイム順に決定）

予選1位 #7 佐藤 蓮 1分46秒116

予選7位 #5 三宅 淳詞 1分46秒630

予選8位 #6 太田 格之進 1分46秒657

予選9位 #8 小山 美姫 1分46秒678

■第7戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



公式予選終了後の午後1時45分、薄く広がった雲の隙間から照りつける太陽の下で第7戦がスタートしました。ポールポジションの佐藤はスタート合図とともにうまく加速、トップのまま第1コーナーへ飛び込みました。ところが中団でアクシデントが発生、オープニングラップのうちにセーフティーカーがコースインしました。

佐藤は先頭でセーフティーカーランを行い、4周目に再スタートが行われてもうまく加速してトップの座を譲らず約2秒の差をつけて4周目を終えると、それ以降後続車を寄せ付けずに周回を重ねていきました。一方後方では9番手からスタートした太田がじりじりと順位を上げ、6周目には5番手へ進出して前を走る3車とともに2番手争いの集団を作りました。この過程で8周目、太田はこのレースのファステストラップを記録しました。



佐藤は2番手集団を約1秒5引き離してトップを走り、フィニッシュを目指しました。ところが13周目の1コーナーで中団にアクシデントが発生、レースはその時点で赤旗が提示され中断されました。結局14周のレースはそのまま打ち切られて11周終了時点の順位でフィニッシュとなり、佐藤は今シーズン4回目の優勝を飾りました。フィニッシュ後、2番手の選手にペナルティが科されたため以降の順位が繰り上がり、太田は4位、小山は8位、三宅は9位に入賞し、HFDPから出走した4選手全員がシリーズポイントを獲得しました。

【 FIA-F4 選手権シリーズ第7戦・レース結果 】

#7 佐藤 蓮 決勝1位 (22分14秒026 ベストタイム 1分47秒060)

#6 太田 格之進 決勝4位 (22分17秒147 ベストタイム 1分46秒827)

#8 小山 美姫 決勝8位 (22分26秒413 ベストタイム 1分47秒225)

#5 三宅 淳詞 決勝9位 (22分26秒862 ベストタイム 1分47秒101)

ファステストラップ：#6 太田 格之進 (1分46秒827)

■第8戦決勝レース（14周）：天候/晴れ 路面/ドライ



日曜日にも富士スピードウェイは朝から夏の日差しが照りつけるコンディションとなりました。午前8時に第8戦がスタート。ポールポジションから第1コーナーに飛び込んだ佐藤でしたが、ブレーキングでオーバーステアからリヤが滑ったことからわずかにホイールをロックさせてラインが膨らみ、インを菅波冬吾選手に奪われて2番手でレースを始めることとなりました。佐藤はさらに1周目を終えるストレートで平木玲次選手にスリップストリームに入られ2周目の第1コーナーで3番手へ後退しました。

佐藤は4番手を引き離しながら前を行く2車に続き、逆襲のチャンスを狙いました。4周目の第1コーナーで平木選手が菅波選手をかかわしてトップに立つと、佐藤は2番手となった菅波選手に迫りダンロップコーナーでブレーキを遅らせて菅波選手のインに飛び込み順位を入れ替えて2番手へ復帰しました。佐藤はさらにトップの平木選手を追い、7周目の最終コーナーからの立ち上がりでスリップストリームに入って8周目の第1コーナーで平木選手のインへ飛び込んで一旦首位に立ちました。しかしその直後クロスラインを取った平木選手が逆襲してきたため佐藤はコココーラコーナーで2番手へ引かざるをえませんでした。佐藤は9周目、改めて平木選手のスリップストリームに入って第1コーナーで攻め込み、今度はうまく平木選手を押しさえ込んで首位を奪い返すことに成功しました。



しかし激しい攻防はさらに続きました。10周目、逆に佐藤のスリップストリームに入った平木選手が迫り、第1コーナーから100Rで首位を奪われて、佐藤はまた2番手へ後退。レースが残り2周となった13周目、2番手の佐藤は第1コーナーに飛び込んで一旦平木選手の前へ出ましたが8周目同様、クロスラインを取られて2番手へ引かざるをえず、そのまま最終ラップを迎えることとなりました。

佐藤は13周目の最終コーナーで平木選手との間隔を詰め、ストレートでスリップストリームに入ると0秒180差の2番手でコントロールラインを通過し、最終ラップの第1コーナーでアウトへ飛び込みました。こうして首位に抜け出した佐藤はそのまま平木選手を押しさえ込んでコココーラコーナーを抜け、先頭を守ったまま最後の1周を走りきって先頭でチェッカーフラッグを受けました。

佐藤は連勝で今季5勝目、富士スピードウェイでは4連勝を遂げ、シリーズポイントランキング首位の座を固めました。太田は三宅と接触しながら9位でフィニッシュ、やはりシリーズポイントを獲得しました。小山は13位フィニッシュ、三宅は太田と接触した影響で10周リタイヤに終わりました。



【 FIA-F4 選手権シリーズ第8戦・レース結果 】

- #7 佐藤 蓮 決勝1位 (25分06秒582 ベストタイム 1分46秒605)
- #6 太田 格之進 決勝9位 (25分15秒981 ベストタイム 1分46秒572)
- #8 小山 美姫 決勝13位 (25分18秒799 ベストタイム 1分46秒887)
- #5 三宅 淳詞 リタイア (10周)

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング (2019 シーズン第8戦終了時点)

- 1 番手 #7 佐藤 蓮 161 点
 - 3 番手 #6 太田 格之進 92 点
 - 7 番手 #5 三宅 淳詞 58 点
 - 15 番手 #8 小山 美姫 4 点
- (1位25点、2位18点、3位15点、4位12点、5位10点、6位8点、7位6点、8位4点、9位2点、10位1点、)

■2019FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2019 シーズン第8戦終了時点)

- 1 番手 HFDP 200 点
- (各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP/SRS/コチラレーシング 三宅 淳詞



前回の富士も全然ダメだったのでそれなりに対策をしてきたつもりだけど全然ペースが悪くなくて予選で後方になってしまいました。予選では自分のパフォーマンスは出し切ったんですけど、トップには全然届きませんでした。決勝で接触してしまったのは走っている位置が悪かったからです。日曜日のレースでは、ターン13の前方で接触があったので僕は引



つかかる形になって減速したところ、太田選手がインに入ってきて当たってスピンしてしまいました。ぼくは前について行くのがせいっぱいでした。接近するとダウンフォースが抜けてしまうのでそこからポジションを上げるのは今の僕には無理でした。次戦のAPIはコースの特徴も違いますけど、そういう原因を早く見つけて克服しないといけないと思います。

●ドライバーズコメント：#6 SRS/コチラレーシング 太田 格之進



予選の敗因はスリップをうまく使えなかったことです。前回の鈴鹿に比べて、流れをうまくつかめなくてペースも伸びませんでした。この週末は予選順位に尽きます。このレースはタイム差がないので予選ではもっと前にいかないと闘えません。特に富士はスリップを使えば抜けるコースだとは言え、相手も抜いてくるわけで、いくらペースが良くても1台抜いたら1台抜き返されるという展開



になってしまいます。ただ今回は土曜も日曜も、決勝の展開も良くてうまく順位を上げられたかなとは思いますが。でも流れが悪かった。クルマもドライバーも不完全燃焼に終わってしまいました。2レースとも完走できたのが救いです。

●ドライバーズコメント：#7 SRS/コチラレーシング 佐藤 蓮



今週は、練習の段階ではあまりペースが良くなかったのが厳しいかなと思っていましたが、予選ではうまくスリップが使って前に並べました。レースもトップスタートすることができて、SCスタートもうまく決まり、そのマージンのまま逃げて、赤旗中断という形ではありましたが優勝ができました。不完全燃焼ではありましたが、日曜日はバトルらしいバトルができて、最終ラップにいろいろ駆け引きをしてそれで勝てたので、今季の中でも一番いいレースだった

と思います。スタート直後の1コーナーは、少しオーバーが出てリヤが滑ってスキを与えてしまいました。でもペースはこちらに分があると思ったので落ち着いて1台ずつパスしていけました。後半は攻められるときに攻めて相手のタイヤを摩耗させてやろうと思っていました。最終ラップは相手のミスもあって、最終コーナーで後につけたので勝てました。クルマも自分の手足のように動かせるようになって今年は成長したなと実感しています。



●ドライバーズコメント：#8 #USLETE Honda Racing 小山 美姫



前回鈴鹿は練習時間もなかったしああいう形で終わってしまったんですが、その後のテストでは調子は良くてHFD4台の中でも2番手、3番手に入れるようになってきたところで今回の富士を迎えました。富士はこれまでも走り込んでいるし、去年も自己最高の7位になれているし、今回は7位以上と思っていました。でも予選ではスリップをうまく使えませんでした。自分のペース自体は良か

ったので残念です。前回クラッシュしてしまったので今回はどんな選手がどんな戦い方をするのかをよく見てレースに臨みました。でも思った以上に荒れましたね。こちらはなんとしてもゴールしたかったので用心して走りました。私自身も周囲にあまり信用されていないので、結局荒いレースの中で引く方を選んでしまいました。満足はできないし悔しいけど壊さずに走りきった結果で、次に繋がったと思います。

